

東日本大震災からの復興現場における支援活動 ～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～

日 時 : 2012年5月10日(木) 13時00分-16時50分
会 場 : 筑波大学 東京キャンパス 最寄駅: 茗荷谷駅出口1 (丸ノ内線)
主 催 : 横幹技術協議会、横幹連合
参 加 費 : 横幹技術協議会会員企業の関係者、横幹連合会員学会の正会員、学生は参加無料。
当日資料代: 1,000円 (希望者のみ)

【上記以外】一般 5,000円 (資料代込)

参加申込: 【事前登録】 オンライン申込 (http://www.trasti.jp/forum/forum34_kyg.html)

【企画趣旨】

2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年、未だ被災地では様々な復興に向けた活動が続けられている。一方、緊急時を見据えた法制度の不備等により、現地での活動は思うように進まない現実も現れている。また、被災地の多くが地方都市であり、現時点での被災地の課題は、今後の日本における高齢化社会や産業空洞化の問題の縮図となっており、被災地の復興に向けた新たな街づくりは、次世代に向けた日本全体の街づくりと密接な関係があると言える。本技術フォーラムでは、被災現場における復興活動の紹介と共に、活動の障壁となっている課題や、今後の街づくりへの課題を講演いただき、産学官が連携してこれからどのような活動が出来るのかを議論する。

【プログラム】

		(敬称略)
		総合司会: 谷川 民生 (産業技術総合研究所 主任研究員)
13:00-13:10	開会にあたって	桑原 洋 (横幹技術協議会 会長)
13:10-13:50	◆ 講演 1 気仙沼～絆～プロジェクトからの震災復旧・復興における問題点の提起	大場 光太郎 (産業技術総合研究所)
13:50-14:30	◆ 講演 2 中間支援団体としての東北復興支援	工藤 雅教 (Civic Force)
14:30-15:10	◆ 講演 3 被災地の復興 「復興屋台村の立ち上げの活動を通じて」	若生 裕俊 ((社)復興屋台村気仙沼横丁理事)
(15:10-15:20)	休憩	
15:20-16:00	◆ 講演 4 被災地へのトレーラーハウス導入支援と 日本版 FEMA に関して	原田 英世 ((株)カンパニーランド・ジャパン)
16:00-16:40	◆ 総合討論	司会: 谷川 民生 講師の皆様
16:40-16:50	閉会にあたって	出口 光一郎 (横幹連合 会長)

東日本大震災からの復興現場における支援活動 ～次世代に向けた日本の街づくりとして我々は何ができるのか～

2012年5月10日（木）13時00分～16時50分

【講演要旨】

講演1

「気仙沼～絆～プロジェクトからの震災復旧・復興における問題点の提起」

◆ 大場 光太郎（産業技術総合研究所知能システム研究部門 副部門長）

産総研が開始した「気仙沼～絆～プロジェクト」の概要を紹介するとともに、本プロジェクトを進めるに際して生じた様々な問題として、法制度から組織の体制・体質などの問題を提起します。さらには工学の技術を社会実装する際に必要となる、社会的な知見を含めた総合的な問題解決型学問のあり方まで議論できれば幸いです。

講演2

「中間支援団体としての東北復興支援」

◆ 工藤 雅教（Civic Force 東北事務所副代表）

Civic Force は、あらゆる被災者のニーズに応えられるよう、被災者一人ひとりの視点を最大限重視し、企業・政府・行政・地域とも連携し、迅速且つ質の高い支援を提供することをミッションに掲げています。東日本大震災発生翌日にはヘリコプターで被災地を視察、即刻支援活動を開始しました。緊急時から中長期を見据えた復興フェーズまで、人と支援をつなぐ調整役としての現地での活動の教訓と課題についてお話しします。

講演3

「被災地の復興「復興屋台村の立ち上げの活動を通じて」

◆ 若生 裕俊（一般社団法人復興屋台村気仙沼横丁理事）

津波で店を失い、収入が途絶えた飲食店や個人商店の事業再開を支援することで、代々受け継がれてきた各店の味を守るとともに、各店が担ってきた港町の賑わいや地域のコミュニティ機能を回復させるために、復興屋台村気仙沼横丁をオープンしました。中小機構の仮設店舗等整備事業を活用し、その他の造成・設備・備品などの初期費用は運営側で負担することで、店主たちは身一つで事業を再開しています。この活動は、被災地のシンボルとし広く発信し、全国から来客いただいています。

講演4

「被災地へのトレーラーハウス導入支援と日本版 FEMA に関して」

◆ 原田 英世（株式会社カンパーランド・ジャパン）

1995年頃からトレーラーハウスは日本国内で移動できる住居や店舗として活用されてきました。さらに米国の FIMA（連邦緊急事態管理庁）は災害発生時にもトレーラーハウス等の RV（Recreational Vehicle）を活用しています。日本「阪神淡路大震災～中越沖地震そして東北沖地震等」での活用も早期に復興するための道具として「場所や空間」として非常に有効といえます。この度の気仙沼では、この考え方を進化させ自立型スマートライフセンターとして設置致しました。一方、被災地での活用方法は限りなくありますが、法律の問題点（診療所は移動できない）等により被災者支援に支障が出ているといった問題も生じています。これらの問題点を解決すると防災のための新しい対策が可能になり「日本版 FIMA」になるかもしれません。加えて、新たな産業（海外向け生産）等も生み出す可能性もあります。

<第 34 回横幹技術フォーラム 申込書>

1.お名前： _____ 2.ご所属： _____

3.電子メール： _____ 4.TEL： _____

5.参加費区分：※該当するものに○印をつけてください。

(a) 横幹技術協議会会員企業の関係者 (b) 横幹連合会員学会の会員 (学会名： _____ 学会)

(c) 学生 (d) その他

交通案内

<http://www.tsukuba.ac.jp/access/gmap/gmap.php?f=2>

文京校舎最寄駅：茗荷谷駅出口 1 (丸ノ内線)